

方向性

①総務省が支援する対象領域の明確化:

ICT分野の若手研究者等育成と実用化・社会実装推進という二つの方向性

②「未来投資戦略2018」への対応:

「各府省の競争的研究費についても、若手の育成や支援を重視した仕組みの導入や充実を検討」旨記載

③大学、高専、中小企業等各地で行われている研究開発をシーズ側から発掘していくスキームの充実

④若手研究者枠採択課題のレベルアップ:

フェーズⅡから実施している研究開発課題のうち継続評価を通過するものが少ない現状

⑤ICT政策に応じた柔軟な運用:

「宇宙×ICTに関する懇談会」及び「4次元サイバーシティの活用に向けたタスクフォース」の開催



対応

- ・「社会展開指向型」と「ICT基礎・育成型」の二つのプログラムに集約(上記①)
- ・実用化・社会実装の促進のため、**産学連携による提案を評価**(上記①)
- ・若手研究者枠・中小企業枠に代えて、**若手・中小企業からの提案に制限**(上記②)
- ・ICT基礎・育成型(フェーズⅠ)採択枠の拡大(上記②及び③)
- ・従来の若手研究者枠で行っていたフェーズⅡのプログラムをフェーズⅠ・Ⅱに変更(ICT基礎・育成型に再編)(上記④)
- ・重点研究開発分野(現7分野)として、新たに**衛星データ利活用分野を追加**(上記⑤)

概要

プログラム名	研究開発の概要		研究開発費* (年度当たりの上限額)	研究開発期間
ICT基礎・育成型 研究開発 (以前の「ICT研究者 育成型研究開発」 を見直し)	ICT分野の研究者として次世代を担う若手人材を育成することや中小企業等の斬新な技術を発掘するために、Feasibility Study(本格的な研究開発のための予備実験や理論検討等の研究開発)として課題終了後の発展が見込める課題や、情報通信分野の基礎的な技術の発展に寄与する課題の研究開発			
	3 年 枠	実行可能性や実現可能性の検証等を実施(フェーズⅠ)した上で、選抜評価を経て、更に、最長2年間の研究期間で基礎から応用までの広い範囲の技術を対象とした研究開発を実施(フェーズⅡ)するもの	フェーズⅠ： 300万円 フェーズⅡ： 1000万円	フェーズⅠ： 1か年度 フェーズⅡ：最長2か年度

※ 別途間接経費(直接経費の30%を上限)を配分。

採択評価における観点

採択評価の主な観点

- 中小企業の要件による応募の場合、斬新な視点を持った技術の発掘・発展につながる研究開発か。
- 研究代表者が研究の遂行に十分なエフォートを割り当てているか(例:30%程度)。